



## 野菜の摂取量向上に向けた取組

保健医療局健康医務部健康対策課

### あいち食育いきいきプラン2020の目標

項目	基準年(H26)	現状		目標(R2)
野菜の摂取量(成人1日あたりの摂取量)	265g	224g(H28)	272g(H29)	350g以上

数値：愛知県分(政令・中核市除く)

### 1 現状と課題

「平成29年国民健康・栄養調査」結果によると、愛知県の野菜摂取量は目標値である350gを下回っており、都道府県別野菜摂取状況においても平成24年は全国最下位、平成28年は下位群の状況であるため、野菜摂取量の増加を図る必要がある。

### 2 主な取組

#### (1) 平成30年度の取組実績と評価

平成29年度に引き続き、「生活習慣の改善にチャレンジしてみよう!」という県民の気運を高めるために、生活の身近な場所から健康情報を一斉に発信する「健康づくりチャレンジ推進事業」に取り組んだ。

#### ○啓発イベントの開催

開催日：平成31年3月2日・3日  
開催場所：イオンモールナゴヤドーム前店  
来場者数：7,601名  
(ステージイベント、食・運動・健康の体験型ブース)



啓発イベントの様子

#### ○あいち健康情報ステーションの設置

平成31年2月1日から3月3日の約1か月間、協賛するスーパー、飲食店、社員食堂等1,653店舗(政令・中核市含む)設置し、健康情報を一斉に発信

#### 【評価】

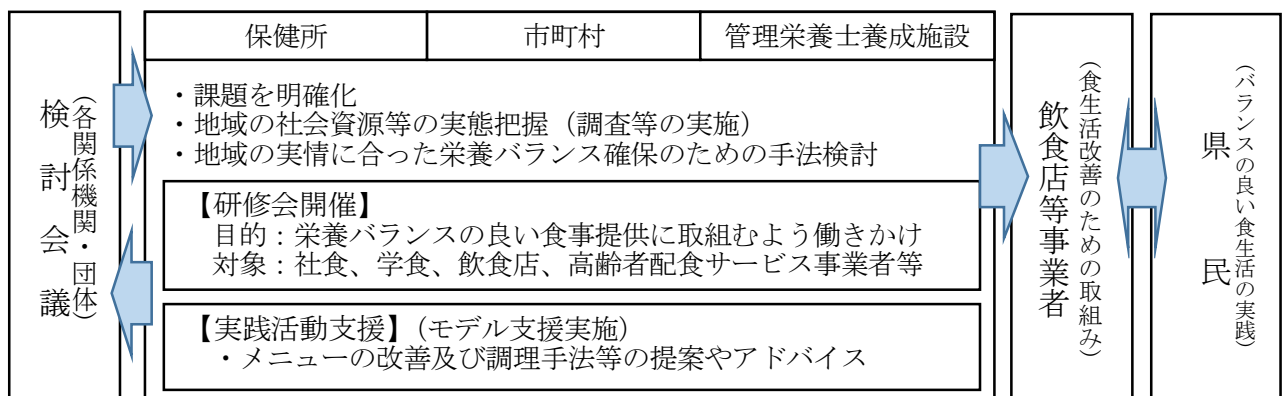
イベント参加者のうち9割以上は健康づくりへの関心が高まった。また、事業を3年間取組んだことで、事業の認知度も上がり、「あいち健康情報ステーション」の設置内容も充実し、情報発信力が強化された。

あいち健康情報ステーションの様子  
(平成30年度)

#### (2) 令和元年度以降の取組(予定)

平成28年度から「健康づくりチャレンジ推進事業」において、県民の健康意識の向上を図ってきた。令和元年度からは、個人が外食や配食サービス等を利用する機会においても、野菜摂取量の増加も含め、主食・主菜・副菜を組み合わせたバランスの良い食生活が実践できるよう支援する「食生活改善支援事業」を実施する。

### 3 取組推進のための事業、体制等のイメージ





## 学校給食等における地域の産物の活用に向けた取組

教育委員会事務局保健体育課

### あいち食育いきいきプラン2020の目標

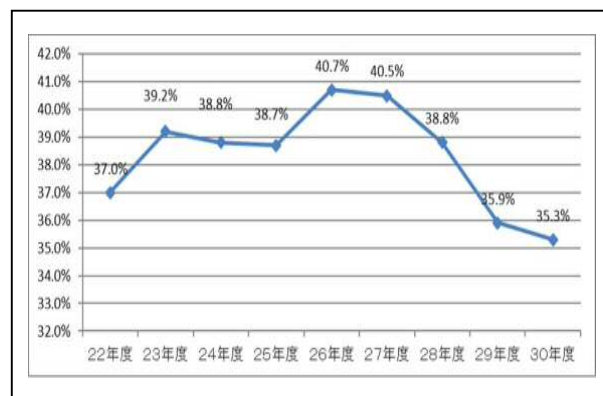
項目	基準年	現状	目標 (R2)
全食品数に占める県産食品数の割合	40.5% (H27)	35.3 (H30)	45%以上
年間に使用した県産食品の種類	54 種類 (H26)	55 種類(H29)	60 種類以上



### 1 現状と課題

平成19年度から、食育月間である6月に「愛知を食べる学校給食の日」を実施し、平成23年度からは、年3回（6月・秋・1月）に拡充した。しかし、①使用量が確保できない、②規格・サイズにあった食材が必要量確保できない、③価格が高い・安定していない等の理由により全食品数に占める県産食品数の割合は目標に届いていない。

今後は、地域の産物を学校給食に活用した食に関する指導がどのように児童生徒の地域の理解に繋がるのかを検証しながら、取り組んでいく必要がある。



全食品数に占める県産食品数の割合

### 2 主な取組

#### (1) 平成30年度の取組実績と評価

本県の学校食育では、「食を通じて豊かな心を育む」こと等をめざしており、その施策として「愛知を食べる学校給食の日」の年3回の実施や「わが家の愛であ朝ごはんコンテスト」を行い、学校給食で地場産物の活用率アップを目標に取り組んでいる。

#### 【評価】

コンテストでは、315校11,877点の応募があり、その中から10名の小学生が本選で調理を行い、内容とできあがり審査した。

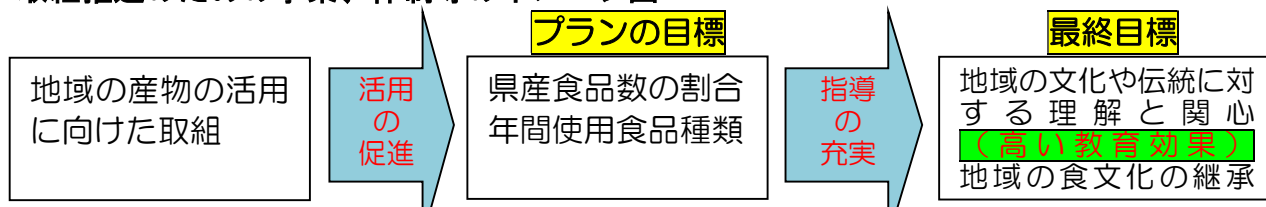
コンテストを通じて地域の食材と食文化の理解に繋げることができた。



#### (2) 令和元年度以降の取組（予定）

引き続き「愛知を食べる学校給食の日」を実施し、愛知の自然の恵みの中で採れる地場産物への理解を深め、地域に伝わる食文化や食の加工技術に触れることにより、地域をより身近に感じ、より豊かな食生活を営もうとする意欲を高める。

### 3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





## 郷土料理等地域の食文化の継承に向けた取組

農業水産局農政部食育消費流通課

### あいち食育いきいきプラン2020における位置づけ

#### Ⅳ 県や関係団体の取組

##### 1 目指すべき姿に向けての取組

1-2食を通じて豊かな心を育むために

(3) 日本の食文化や郷土料理等の理解と継承

イ 給食等における地場産物や郷土料理等の導入促進

ウ 日本型食生活の推進、郷土料理等の地域の食文化の継承

### 1 現状と課題

平成25年12月の「和食；日本人の伝統的な食文化」ユネスコの無形文化遺産登録を契機に、伝統的な食文化の保護・継承の重要性が高まっており、本県に伝わる郷土料理等の食文化の理解を促進し継承していく必要がある。

### 2 主な取組

#### (1) 平成30年度の取組実績と評価

- 「あいち食育サポート企業団食育月間合同イベント」に出展した。『あいちの郷土料理レシピ50選』（以下『レシピ50選』という。）掲載のレシピ配布や豆つかみゲーム、箸の使い方アンケート、和食クイズ、「和食の日」チラシ配布等を行い、「郷土料理」「食事作法」等の啓発を行った。また、「愛知県庁本庁舎公開イベント」や「あいちの農林水産フェア」においても同様の啓発を行った。
- Webサイト「食育ネットあいち」で『レシピ50選』の公開を引き続き行った。



#### 【評価】

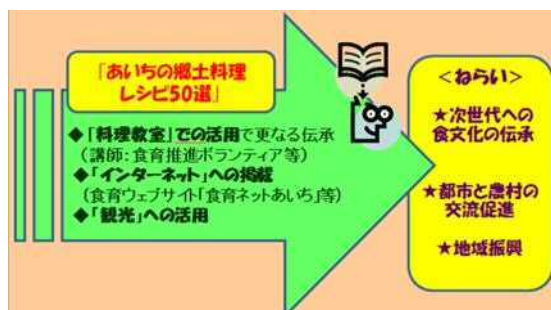
イベント参加者から「レシピを家で実践してみたい」という声が聞かれるなど、郷土料理等の継承に関する周知・意識向上を図ることができた。

『レシピ50選』のページには9万件以上のアクセス数があり、県民に広く郷土料理の周知を行うことができた。

#### (2) 令和元年度以降の取組（予定）

- 和食の良さについて、歴史・文化的背景、栄養学の観点から考えることをテーマにした「あいち食育いきいきシンポジウム」及び「地元農産物を活用した和食講習会」を開催する。
- 「農林水産フェア」等県民を対象としたイベントにおいて、『レシピ50選』の紹介や郷土料理クイズ、豆つかみゲーム等を行い、食文化の理解を促す。
- 食育推進ボランティアに、引き続き、『レシピ50選』を活用した料理教室等で、県内各地域での食文化継承に取り組んでもらうための支援及び働きかけを行っていく。

### 3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図



『レシピ50選』を活用した食育推進ボランティアや市町村等による料理教室等の開催を通じて、次世代への食文化の継承、都市と農村の交流促進、地域振興が図られる。





# 食育推進ボランティアの育成と活動の充実に向けた取組

農業水産局農政部食育消費流通課

## あいち食育いきいきプラン 2020 の目標

項目	基準年 (H26)	現状			目標 (R2)
		10.5万人 (H28)	11.3万人 (H29)	10.6万人 (H30)	
食育推進ボランティアから食育を学んだ人数	9.1万人				10万人以上/年間

### 1 現状と課題

「愛知県食育推進ボランティア（以下「ボランティア」という。）は、県民が健全な食生活を実践できるよう、県内各地域で様々な食育活動を行っており、平成 31 年 3 月末時点では、1,134 名が登録している。

各地域で食育活動に取り組んでいただき、平成 30 年度もプランの目標である「年間 10 万人以上」を達成することができた。

ボランティア制度は 18 年を経過し、登録者の活動実態も多様化している。ボランティアを対象に行った活動の実態及び課題等に係る調査をもとに、より効果的な支援方法を検討し、継続的な取組となるよう県として必要な支援を行っていく。

### 2 主な取組

#### (1) 平成 30 年度の取組実績と評価

「食文化継承」「食品ロス削減」「野菜摂取量向上」を重点的なテーマとし、以下の取組を行った。また、ボランティアの知識及び技術の向上を目指した講習会等の機会を提供した。

- ・「あいちいきいき食育シンポジウム（60 名参加）」
- ・「野菜の摂取量向上のための調理講習会（2回：49 名）」
- ・「地域食育推進ボランティア研修交流会（7カ所：153名）」

#### 【評価】

テーマごとの啓発活動人数は、「食文化継承」が 28 千人、「食品ロス削減」が 12 千人、「野菜摂取量向上」は 37 千人であったが、さらに意識的な取組を高める必要がある。

#### (2) 令和元年度以降の取組（予定）

和食の良さについて、歴史及び文化的背景、栄養学の見地からその重要性を改めて考えることをテーマに「あいち食育いきいきシンポジウム」を開催する。

また、地元農産物を活用し和食の魅力を伝える「和食講習会」を開催する予定である。

### 3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図



あいち食育いきいきシンポジウム



野菜の摂取量向上のための講習会